

令和7年度 学校努力点推進計画

名古屋市立日吉小学校

令和7年4月9日

1 研究テーマ

自分から進んで学習する日吉っ子

—夢中になって学びを進めることができるようになるための伴走の在り方—

2 テーマについて

本校では、昨年度から努力点「自分から進んで学習する日吉っ子 —見通しをもって学ぶことができるようになるための伴走の在り方—」をテーマに子ども主体の学びを推進してきた。これは、「ナゴヤ学びのコンパス」で、重視したい子どもの姿の1つに挙げられている「自分に合ったペースや方法で学ぶ」ことに通ずる取組である。

昨年度の実践において、単元全体の見通しをもち、自分で学習計画を立てて学習に取り組むようにしたことで、自分なりの学び方を考え、自分に合った学び方を選んで学習する子どもの姿が多く見られるようになった。また、一人で学習を進めるだけでなく、必要に応じて子ども同士で教え合ったり、解決策を話し合ったりしてもよいことを子どもに意識付けすることで、仲間と学び合いながら学習を進める子どもの姿も見られるようになった。これらの結果から、学習することへの喜びを味わい、意欲的に学びを進めることができるようになったと考える。

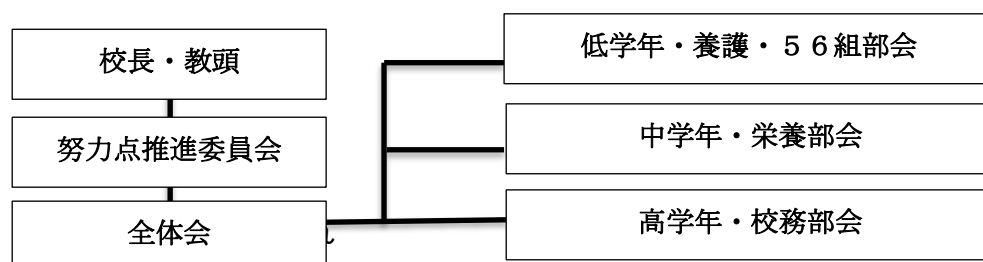
一方で、学習に集中できない子どもや、一度導き出した考えに満足してしまい、学びが不十分なまま次の課題へ向かう子どもの姿が多く見られた。自走して学ぶ姿が見られるようになったからこそ、子どもたちが夢中になって学びを進めることができるような手立てが必要であると考えます。

これらのことから、本校では、重点を置きたい子どもの姿を「夢中になって学びを進める子ども」とする。「夢中になって学びを進める子ども」とは、自分が立てた学習計画や学習課題を達成するために、試行錯誤しながら学習し、粘り強く取り組む子どもである。これは、昨年度本校が取り組んできた、子どもが自分で学習の進め方を決めることや、見通しをもって学ぶことができるようになることを踏まえたものである。子ども主体の学びを推進する姿勢を維持しつつ、さらに「夢中に」させるための働き掛けについて模索していく。

難しい課題に立ち向かうことや、自分の理解が深まっていくことなど、学びに夢中にさせることによって、今年度までに身に付けてきた見通しをもって意欲的に学びに取り組む姿をさらに促進させ、学習に集中できなかったり、深まりが不十分なままになってしまったりする状況の改善を図り、「自分から進んで学習する日吉っ子」を目指す。

3 研究の方法

(1) 研究組織



⑩授業実践者・時期の決定（5/2までに）

部会で授業者（各部会1名以上）および実践時期について検討する。決定したら、係に報告する。

①授業者の計画案提出（第一回事前検討会までに）

授業者がテーマに沿った単元計画を立て、係に提出する。教科は指定しない。（計画書は【共有文書→02 教務→01 教務部→04 努力点→令和7年度→01 計画書・報告書 原本、02 計画書・報告書 記載例】を参考に作成する）

②第一回事前検討会（実践一か月前までに）

授業者の計画案を部会内で共有する。

③部会内職員各自の検討（第二回事前検討会までに）

授業者の計画案を基に同じ部会の職員全員が、子どもが「夢中になった姿」を単元内の、どの場面、どのようなものから見取ることができそうかを考える。

④第二回事前検討会（実践1週間前までに）

部会の職員の検討内容を基に、実践の中で目指すべき「夢中になった姿」を話し合い、明確にする。また、その姿を引き出すために有効だと思われる手立てや働きかけがないかについても検討し、必要に応じて計画案を修正する。

実践前に最終的な実践計画を職員全体へ配布し、データを【共有文書→02 教務→01 教務部→04 努力点→令和7年度→03 各学年の保存先】に保存する。

⑤実践

実践を行い、事前に明確化した「夢中になった姿」を基に成果と課題について整理する。同じ部会の職員は実践中全時間を参観する必要はないが、それらの姿の見取りや担任の働きかけの効果を検証することができるよう、授業実践者を支援する。

⑥事後検討会

実践の概要、成果と課題について報告し、課題の改善に向け話し合う。事後検討会には主幹・努力点推進委員長・各部会の職員、その他希望者が出席する。

⑦報告書の提出

実践後、部会内で報告書をまとめる。授業実践者以外も、各教室で実践での学びを基に「自分から進んで学習する日吉っ子」を目指した指導にあたり、そこでの成果や反省を部会の報告書に載せる。完成した報告書は、職員全体へ配布し、データを【共有文書→02 教務→01 教務部→04 努力点→令和7年度→03 各学年の保存先】に保存する。この際の報告書は最終報告会でも同じものを使用できる。

⑧最終報告会

各部会から実践の概要と、事後検討会での話し合いを踏まえた成果と改善点を報告し、情報を共有する。

(3) 年間計画

時期	内 容	備 考
4月 5月	○ 推進計画の提案 ○ 授業実践者・時期の決定	・ 各部会から1名以上の実践者と実践の時期を決定する。
6月 ～12月	○ 計画～実践	・ 実践に向けた事前検討会や実践、事後検討会を随時行う。
1月 3月	○ 最終報告会 ○ 推進委員会	・ 今年度の実践を踏まえ、次年度の実践について検討する。